常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和２年１０月２３日(金)

◇　「求めてはげむ＝努力」と「支援」

◆児童の努力

長放課や昼放課に校舎に響く音がある。太鼓の音は日を増して力強くなり、鍵盤ハーモニカの音色はきれいなハーモニーを奏でるようになった。最近は、始業前にも太鼓の音が聞こえてくる。そう、鼓笛隊で太鼓とハーモニーキーボードを担当するのは５・６年の上級生、鍵盤ハーモニカの主体は４年生だ。

数名の児童による鼓笛の自主練は、今に始まったものではない。ずっと前からやっている。休憩の時間を練習に充てているのはすごいが、きっと演奏することが好きで、上達の実感が得られているのだろう。それでも教師の指示ではなく、自主的に練習をしているところに大きな価値がある。さらに、学校でなければできない練習があることを児童たちは知っているのだろう。音の「合わせ」である。「学習発表会」のもう少し先。児童たちの発表の場は創立 120 年式典である。

◆教師の支援

24 日（土）に迫った「学習発表会」に向けて、学校の雰囲気は発表会一色かと思われがちだが、そうでもない。確かに時間割の変更はあるが、発表会の練習一辺倒でないところがよい。算数や国語、英語活動などの授業もしっかり組まれている。姿勢を正して授業に臨む教室での学びがきちんとある。

行事に向かうにあたり、日課の変更はやむないが、大切になってくるのが日課のバランスである。何かに特化してしまうと、それを終えた時の回復が難しい。教師も子供たちも気が抜けやすく、子供たちの気持ちもふわふわしがちになる。行事で大切なのは、生活のリズムを日常や通常に戻すことであり、そのことも十分心得ながら、各担任が工夫して日課を組んでいることが頼もしい。

こうした各担任の学級経営を見ていると、新型コロナ対応で学芸会を「学習発表会」に変更したこともいい方向にはたらいていると捉えることもできる。

そんな中でこちらの予想を超えたことが一つある。5 年生の活動である。総合的な学習と理科の学習のクロスカリキュラムで５年生は学校の池「ギョギョランド」の清掃に取り組み、池の水は見違えるほどきれいになった。学びはここにとどまらず、経年により彩色が薄らいだ「ギョギョランド」の看板を塗り直すということになる。『ギョギョランドで、掃除の他に何かやりたいことはある？』との担任からの問いかけに児童たちが応えたのである。早速、図工や総合的な学習の時間を使って制作に取り掛かった。特筆すべきは、学習発表会の練習やおかざきっ子展の作品制作と並行して行った（行わせた）ところにある。

学びに大切なのは、子供の意欲の見極めとタイムリー性である。ここしかないというタイミングがあるのだ。看板についてはまさにそう。忙しさの極みであるがこの時期しかないのだ。やりくりして何とか実現させる担任の心意気が見えた。

井の
井の
小ブラ